

# 2007年度行事報告

## 【第51回日本菌学会参加】=====

日 時：2007年5月26日(土)～27日(日)  
場 所：筑波大学

2007年5月26日～27日に筑波大学で開催された「日本菌学会第51回つくば大会」のアマチュアの会有志によるコーナー「アマチュア研究者の取り組み(2007年)」へ千葉菌類談話会もアマチュアきのこの会として参加し、談話会の紹介ポスターおよび会報の展示と絵葉書の販売などを行いました。

## 【総 会】=====

日 時：2007年7月28日(土)  
場 所：佐倉城址公園  
参加者数：67名

まだ梅雨が明けない(4番目に遅い 2007年の梅雨明けは8/2でした)というのに当日は晴天でとても暑かったのですが、参加者が67名という大盛況の中、総会が佐倉城址公園で行われました。事務局より18年度会計報告

と19年度世話人と行事予定の提案があり了承されました。幹事会で議論されていた観察会時におけるボランティア保険に今年度からに加入したことが報告されました。

それから4月にお亡くなりになった本郷先生のご冥福をお祈りして黙祷しました。本郷先生追悼号として会報を別に発行することになったことも報告され、承認されました。

## 【第49回観察会】=====

日 時：2007年7月28日(土)  
場 所：佐倉城址公園  
講 師：吹春 俊光  
参加者数：67名  
採 集 数：56種(不明種を含む)

総会の後、各自城址公園の中を散策し、午後から同定会を行いました。平和公園で採集したきのこを持参されたOさんや他の会員の話によると千葉県内ではここ数日きのこがたくさん発生しているということでしたが、佐倉城址公園の土はやや乾燥気味できのこはあ



まり多くないようでした。

夏休みということもあり、小学生の参加者も数名ありました。きのこ好きになったかな。それから大きなカブトムシをもらった男の子、好奇心はあるけどちょっと触るのが怖い様子。甲虫ゲームが人気だそうですが、実物を見てどのように感じたのでしょうか。「今年は蟬など、昆虫が少ない」と複数の会員の方が言っていたのが気になりました。そういえば半袖で歩きましたが蕨蚊もいなかったです。

### 観察記録 (50 音順)

アイゾメクロイグチ、アセタケ属 (複数種)、アミスギタケ、イロガワリ (傘と柄の接合部分離生)、ウズラタケ、オオカボチャタケ、オオツルタケ、オオヤシャイグチ (千葉では珍しい。傘や柄に緑色のカビが生えたように緑色っぽい)、オキナクサハツ、オツネンタケ、オニイグチの仲間、カキノツメ、カワラタケ、カワリハツ、ガンタケ、キッコウアワタケ、キヒダタケの仲間、クサウラベニタケ、クモタケ、クリイロイグチ、クロハツ、コナカブリテングタケ?、コフキサルノコシカケ、コムラサキシメジ、サマツモドキ、ザラエノハラタケ、シロハツ、スジウチワタケ、タマゴテングタケモドキ (ヒダがピンク)、チチタケ属、チャウチワタケ?、ツエタケ、ツチグリ、ツチナメコ、ツマミタケ、ツルタケ、テングタケ、冬虫夏草?、ドクツルタケの仲間、ナヨタケ属、ニガイグチ属、ニガクリタケ、ニセショウロ属、ハイイロイタチタケ、ハナオチバタケ、ヒビワレシロハツ?、ヒメコナカブリツルタケ、フクロツルタケ、ベニタケ属、ヘビキノコモドキ、ミドリスギタケ、ミドリニガイグチ、ミヤマタマゴタケ (ヒダはピンクにならない、ツボが二重)、ムラサキシメジ属、ヤナギマツタケ、ヤマドリタケモドキ

### 【第 50 回観察会】=====

日 時：2007 年 9 月 29 日 (土)

場 所：泉自然公園

講 師：吹春 俊光

参加者数：46 名

採 集 数：57 種 (不明種を含む)

雨模様の観察会になりました。灼熱の夏がようやく終わり、きのこの季節がやってきましたが、例年より発生が遅れているとの声も多かったように思います。珍しいテングタケ属のきのこが採集されたのが印象的でした。

最後に吹春先生にスライドを見せてもらいました。南半球、ニュージーランドを中心としたアンモニア菌の話でしたが、アンモニア菌とはアンモニアを餌にしているのではないことを知り、目から鱗! でした。

### 観察記録 (50 音順)

アカチャツエタケ、アセタケ属、アラゲキクラゲ、アンズタケ属、ウスキテングタケ、ウラグロニガイグチ、ウラベニガサ、ウラベニガサ属、オオツルタケ、オニイグチ?、オニイグチモドキ?、オニタケ?、オニテングタケ (珍しい)、カバイロツルタケ、カブラアセタケ、ガンタケ?、キアシグロタケ、キイロイグチ、キウロコテングタケ、クサハツモドキ?、クロチチダマシ、クロハツ、ケショウハツ、コウジタケ、コガネヤマドリタケ、コテングタケモドキ?、コフキサルノコシカケ、シロオニタケ、シロテングタケ、ダイダイガサ、タマゴタケ、タマゴテングタケモドキ (アカハテングタケ)、タマチョレイタケ?、チチタケ属、チャワソウタケ類、ツエタケ、ツチグリ、ツチナメコ、ツノカラカサタケ、ツブエノウラベニイグチ? (孔口が赤色)、ツヤウチワタケ、ツルタケ、テングタケ、テングタケ属 (見たことがない)、テングツルタケ、ドクツルタケ、ナラタケモドキ、ニガイグチ属、ヌメリガサ属 (チチタケに似た感じ)、ヌメリカラカサタケ属、ハイカグラテングタケ、ハラタケ属、ヒナアンズタケ、ヒロハウスズミチチタケ、ベニタケ属、ミドリニガイグチ、ミヤマタマゴタケ、ムラサキホコリの仲間

## 【第 51 回観察会】=====

日 時：2007 年 10 月 20 日（土）

場 所：市原市民の森

講 師：吹春 俊光

参加者数：61 名

採 集 数：78 種（不明種を含む）

当日は快晴でしたが、前日は雨で地面が濡れておりました。それでも同定会場に並べられたきのこ達はカラフルで、この森の豊かさを象徴しているようです。個人的にはルリハツタケが印象的でした。生えているときはもっと綺麗だったとか。生えているところをまだ見たことがないので、羨ましいかぎりでした。雑誌の表紙にしても良いのではと思わせるようにきのこを美しくレイアウトした方もいました。最後に国立科学博物館の特別展担当者がきのこを標本にするため持ち帰られました。標本となって特別展を飾るのでしょうか？楽しみです。

また、お昼休みには有志によるきのこ汁がふるまわれました。大きな鍋4つ作ったので大丈夫と思い、各自好きなだけよそることになったのですが、材料を下準備して持参してくださった I さんが観察会から最後に戻った時にはきのこ汁は既に無く、結局食べることができなかったのです。ごめんなさい。

### 観察記録（50 音順）

アオゾメタケ、アカヤマタケ属（赤色）、アカヤマタケ属（黄色）、アシナガヌメリ、アセタケ属、アワタケ、アンズタケ、イッポンシメジ、イヌセンボンタケ、ウコンハツ、ウスキモリノカサ、ウスタケ、ウスヒラタケ、ウラベニガサ、ウラベニホテイシメジ、エノキタケ、エリマキツチグリ、オキナクサハツ、オニフウセンタケ、カキシメジ、カバイロツルタケ、カラカサタケ、ガンタケ、キシメジ、キシメジ属、キショウゲンジ、キツネタケ属、キツネノカラカサタケ属、キヒダマツシメジ、クギタケ、クサウラベニ



ケ、クサハツモドキ、クロハツ、クロハツモドキ、コウモリタケ、コガネタケ、コタマゴテングタケ、コテングタケモドキ、サクラシメジ、サクラタケ？、ササクレヒトヨタケ、ザラエノハラタケ、シロハツ、スギエダタケ、スギタケ、センボンイチメガサ、タマゴタケモドキ、タマシロオニタケ、チャツムタケ、チャツムタケ属、ツチナメコ、ドクツルタケ、トビチャチタケ、ナラタケ、ニガクリタケ、ヌメリイグチ、ヌメリササタケ、ハエトリシメジ、バカマツタケ、ハタケシメジ、ハツタケ、ハナビラニカワタケ、ヒナアンズタケ、フジウスタケ、ベニタケ属、ホウキタケ属、ホコリタケ属、マメザヤタケ属、ミネシメジ、ミヤマタマゴタケ、ムジナタケ、モエギタケ、モリノカレバタケ属、ヤグラタケ、ヤナギマツタケ、ヤマドリタケモドキ、ルリハツタケ、ワカフサタケ属

## 【特別企画講演会】=====

炭と菌根でよみがえる松／房総と白砂青松

日 時：2007 年 11 月 23 日（金・祝日）

場 所：千葉県立中央博物館講堂

講 師：小川 眞先生

参加者数：会員 41 名、一般 35 名、計 76 名

森林総合研究所土壌微生物研究室長、環境総合テクノス生物環境研究所所長を経て、現在、大阪工業大学環境工学科客員教授の小川眞先生をお招きし、興味深いお話をいただきました。先生は「白砂青松再生の会」会

長としてマツ林の再生・修復のボランティア活動をされています。お話を伺って、すばらしい活動だと思いました。千葉菌でも何か活動できたらいいなあと思います。以下に講演内容を簡単に紹介します。

### <日本の原風景 -白砂青松->

三保の松原に代表される日本の海岸松林は近年急速に減少している。中国の経済成長に伴う酸性雨、マツノザイセンチュウによる松枯れ、手入れせずに放置されることによる松林の荒廃などの原因がある。海岸松林の消滅は美しい風景が失われるだけでなく、台風や津波などの災害に弱くなることを意味する。

### <地球温暖化とその対策として>

地中温度や海水温度の上昇は微生物の活動を活発化させ、CO<sub>2</sub>濃度の上昇を促し、地球温暖化に拍車をかける。海流が世界の気候のバランスを保っているといわれるが、地球温暖化による海流の変化が巨大台風・サイクロンを発生させる原因となる。森林を再生させ、二酸化炭素を固定化し、廃棄物を炭として農林業に利用すれば炭素を土壌中に大量に封じ込めることができ、地球温暖化防止になる。

### <炭と菌根で甦る松>

10年生の松を使い実験を行った結果、ショウロの胞子液を撒いて弱アルカリの粉炭と少量の磷酸肥料を埋めると松の根に菌根が巻き、マツノザイセンチュウに負けない強い松に育つことが証明された。最も効果が高いきのこはショウロで次にハツタケ、チチアワタケ、アマタケがあげられる。逆にクロハツ、ドクベニタケ、キツネタケでは効果がみられない。松林は手入れが必要である。落ち葉かきをしないと有機物が増え、細菌やカビが繁殖するようになりクロマツの菌根菌には厳しい環境となる。落ち葉かきをしないと松が弱り、芽がやたらと伸びるようになるのが観察される。



炭と菌根で弱った松を治すことも可能である。ただしマツノザイセンチュウで枯れてしまった松は治せない。

### <その方法>

作業期間は11月末～3月。松の根の周りに溝を切る。根を丁寧に切って（引っ張ってはいけない）、細かい炭（木炭に限る。樹皮でも良い。）にショウロの胞子を混ぜたものを根の周りに埋め、きれいな砂で覆う。ニセアカシアとの混生地はダメなので、ニセアカシアを徹底的に退治してから実施すること。トベラとの混生は良い。炭を作るのには「無煙炭化機」を使用すると良い。

### 【第16回スライド大会】=====

日 時：2008年1月19日（土）

場 所：千葉県立中央博物館講堂

参加者数：44名

### スライド発表

須賀良行：2007年のきのこ

石井俊靖：県の衛生研究所で集めているマジックマッシュルーム

浅井郁夫：ホームページ「きのこ雑記」紹介

腰野文男：房総の懐かしい景観ときのこ

村野忠夫：きのこ・テングタケ属を中心に／2008 私からの提案

前川啓二：食卓派にとって美とは何か

三休さん：三休むかしばなし つくば編

## 大作晃一：ブログ「KINOKO WEB」紹介

### ハンドベルサークル「すずらん」による演奏

曲目：「ゲゲゲの鬼太郎」「赤とんぼ」「スター」

今回のスライド大会では、千葉県衛生研究所の研究者より、千葉県内に生息しているキノコの含有成分調査を行うため、シビレタケ等の麻薬原料植物に指定されている 11 種類の情報提供（現物の所持は禁じられていますので情報提供のみ）とそれ以外のキノコ提供の願いがありました。詳細はスライド大会資料をご覧ください。

また、村野さんより、「テングタケ科のきのこ勉強会を立ち上げませんか」と「九十九里の松林できのこの発生に適した環境作りときのこ発生調査、または小川眞先生の講演内容を実践してみませんか」という大変積極的な提案がありました。何かできるといいですね。

恒例のハンドベルサークル「すずらん」による演奏が心を和ませてくれました。皆さん朝早くから寒い中を外で練習していました。来年もよろしくお願いします。

### きのこグッズ展示コーナーより

今年から「写真コーナー」を設けました。出品ありがとうございました。来年も「傑作」をお待ちしています。その他、いろいろ出品して頂きありがとうございました。以下に出品作品を紹介いたします。

#### <写真>

「変なきのこ」（その 1）ミカンの皮、（その 2）どっちが先、（その 3）黒牛が寝そべったような大きなクロカワ、「ニオウシメジの採集風景」、「ヤマドリタケモドキの発生」

#### <書籍・資料等>

2007 気温・雨量の関係グラフ：「ヤマドリタケモドキの発生」、きのこ水彩画、書籍「世界のキノコ切手」、広島きのこ同好会会報誌、



きのこのミニコラム集、小林鄰氏のキノコ観察画記録集、歴史に見るキノコ短歌集、ツマミタケの標本・作り方の説明、佐野書店：図鑑「兵庫のキノコ」・「北海道のきのこ図鑑」  
<その他の展示品>

きのこが描かれたワンピース・セーター、世界の切手に見るきのこフェーブ、毒きのこの切手他数十枚の海外切手、竹ペラ（クルミ付き・焼きめ付き・ニス仕上げ）、きのこの銀のネックレス、きのこのフィギュア、手作りキャラメル、食器類、イタリア産ヤマドリタケ入りのパスタ、きのこ絵の皿、きのこの箸置き、テーブルセンター、ロシア産きのこ入りペースト、きのこ型食卓セット、乾燥茸、採集生茸（ヒラタケ・エノキタケ・ショウロ）出品者名は割愛させて頂きました。

（吉田悦子、菊地栄子、大蔭和子）